



住友 雅人 先生

**略歴**

- 1969年3月 日本歯科大学卒業
- 1973年3月 日本歯科大学大学院歯学研究科（歯科理工学専攻）修了
- 2013年4月 日本歯科大学名誉教授
- 2013年7月 日本歯科医学会会長（現在に至る）
- 2016年4月 （一社）日本歯科医学会連合理事長（現在に至る）
- 2018年4月 （一社）日本歯科専門医機講理事長（現在に至る）

**留学**

- 国内：1974年4月～1975年3月 日本大学医学部板橋病院麻酔科
- 国外：1980年4月～1981年10月 英国・ロンドン大学イーストマン歯科病院麻酔科  
フィンランド・トゥルク大学医学部歯学科

## 日本歯科医学会は（一社）日本歯科医学会連合と学学連携して活動する

日本歯科医学会 住友 雅人

日本歯科医学会は2019年に創設70周年を迎えます。その記念事業として世に発出する歯科イノベーションロードマップ作成のために、各分科会にはそれぞれの専門的提案をお願いしています。これは2021年に開催されます第24回日本歯科医学会学術大会で歯科界の方向性を示す重要な資源となります。私は歯科として健康寿命の延伸を図る手段を確立し、医療界全体の中に組み込んでもらうことが社会への貢献だと思っています。歯科だけが別個に存在するのでなく、医療の中での歯科の役割をはっきりと示すということです。それはとりもなおさず医科歯科連携の真の目標でありアウトカムなのです。そのように考えると日本歯科医学会の役割が見えてきます。日本歯科医師会との立ち位置もわかりやすくなります。

それを中立的な立場で、学術的根拠の収集や歯科医療のニーズの具現化をコーディネートする組織が（一社）日本歯科医学会連合だと捉えると学学連携の意義がよく見えてきます。



栗原 英見 先生

**略歴**

- 1980年3月 広島大学歯学部歯学科卒業
- 1989年11月 米国エモリー大学, Dental Research Center 研究員(文部省長期在外研究員)
- 1991年1月 米国Eastman Dental Center 研究員
- 1992年4月 岡山大学歯学部助教授
- 1995年9月 広島大学歯学部教授
- 2002年4月 広島大学大学院医歯薬学総合研究科 教授 歯周病態学分野  
広島大学歯学部附属病院病院長
- 2004年4月 広島大学歯学部長（2008年3月31日まで）
- 2011年4月 広島大学病院首席副病院長（2017年3月31日まで）
- 2017年4月～ 広島大学大学院医歯薬保健学研究科 教授 歯周病態学研究室
- 2017年4月～ 日本歯周病学会理事長

## 京都宣言の検証

特定非営利活動法人 日本歯周病学会理事長／  
広島大学大学院医歯薬保健学研究科 歯周病態学研究室 栗原 英見

日本歯周病学会60周年記念京都大会では、歯周病撲滅に向けて以下の「京都宣言」を行いました。

早いもので、京都大会から1年を迎えようとしています。この間、日本歯周病学会ではどのようなことが議論され、具体的には何が決まりつつあるのか、京都宣言の項目にそって、ご報告させて頂ければと思います。日本歯周病学会は大学・大学院、あるいは大学附属病院の教員がリーダーシップを取る学会ですので、歯周病に関わる、基礎研究、臨床研究は最も重要です。Periodontal Medicineや組織再生の基礎研究は従来から活発です。一方で、若年者で発症する歯周病は常に最新の科学をもって解析しなければならぬ疾患であり、データベースを作ることによって研究の活性化を目指しています。医科歯科連携を推進するための指標も重要であり、医科の分野で急速に発展しているBig Dataを使った解析にも対応することが重要です。医科歯科連携は地域で活躍している歯周病学会会員が大きな役割を担います。専門医、認定医、認定歯科衛生士の認定基準（内容）については、専門医制度が発足した当時のものままであり、超高齢社会、Periodontal Medicine研究が進んだ現在においては社会が専門医の求めるものも当然変わって来ておりそれに対応することが必要です。また、地域との連携、他職種との連携を一層強めていく必要があります。歯科衛生士理事の導入や地域活動の顕彰はその流れにあります。予防については顕彰制度の中でも取り上げますが、早急に具体的な行動について議論する必要があります。